



マインド マツイ(株) 熊本工場

「常に前を向いている。」高級婦人服製造の恒松法子部長。
直売店も「舟漁」の一角で開設中。

No.21
H21.1.31発行

議会だより



あさぎり

町民の声
元気な地域活動

14
P

議会陳情・研修
中心市街地活性化陳情等

13
P

議長挨拶
町民の方々と一緒に

12
P

一般質問
十二名が登壇

5
~
11
P

条例・補正予算
緊急経済対策補助金等
増額補正

4
P

中学校統合
上中一校で決まる

2
~
3
P

校統合決まる!!

賛成討論七名、反対討論七名あり
上中一校で原案どおり可決!!

中学校統合の議案に対し、以下のとおり討論がありました

討論内容

反対討論

子育て世代の、なお一層の地域離れが現実のものとなり、地域の衰退に拍車がかかり、地域の存亡にかかわる問題である。

賛成討論

教育委員会の独立性を尊重し、教育委員会方針と町の議

案が一致したことを重く受け止める。

反対討論

二一七一名の署名を添えた請願書の重さ、通学路の安全性に不安があり、又適正生徒数は三〇〇名が望ましいとの現場の先生方の意見がある。

賛成討論

自然環境・施設的に恵まれている教育環境を最大限利用することが、ベストである。

反対討論

大多数の地域と地区の人が賛成できないことは、意見が割れることであり、感情的な対立が生まれる。

賛成討論

同じ学校で一緒に学び、友達を作り、あざざり町を愛する人間を作らなければ、あざざり町は一つにならない。

反対討論

改築費用は二校が少ない、通学路の危険性が多い、それぞれの地域の意見をしっかりと受け止めると統合が一体感につながることはない。

賛成討論

投資が多少膨らんだとしても、それが人材育成の結果として、将来この地域に反映されると信じており、一体感を生み出す。

反対討論

きめ細かい指導と安心安全の通学路確保の不安、改築費用・学校運営経費が多い、将来人吉・球磨地域の再編と学制改革の可能性がある。

賛成討論

いずれ社会に巣立っていく子供たちを大きな環境で育てることが責務であり、同じ学び舎で学び、卒業していく子供たちが町を背負うことが一体感につながる。

反対討論

きめ細かい指導が行き届く可能性が二校の方が高く、二つの学校が存在することにより、二校で切磋琢磨できる方がよい。

賛成討論

地域の均衡ある発展であるならば、適正な適地に学校、公的な施設をもつてくるべきであり、周辺部に廃校を残すより、中心部に廃校を残した方が有効に使える。

反対討論

学習指導・生徒指導は五〇〇人規模より、二〇〇〜三〇〇人規模がきめ細かく、目配りがきくと現場の声が多い、地域社会の活性化に最も役立つ学校を捨てる必要はない。

賛成討論

教育委員会でのまとめは民意を反映しているし、今から育ってくれる子供たちへのお土産、成長していくための教材と体力をつけるための場所として、上中の教育環境を提供すべき。

以上のような討論があり、賛成九、反対八、上中一校で可決されました。



上中全景(航空写真)

上中一校で中学

中学校統合調査特別委員会報告

あさぎり町中学校統合調査特別委員会の報告をいたします。去る十二月三日の最終回まで八回にわたって開催。

小中学校や保育所等の保護者代表の方々にも、仕事にお疲れのところを夜間にお出でいただき、貴重なご意見をお聞かせいただきました。

この場を借りまして、御礼を申し上げます。

本委員会調査を大きく区分しますと、執行部方針の評価・委員会の独自調査・住民との協働・委員による討議に区分されると思います。これらの区分に沿って、調査の経過等を報告いたします。

一. 執行部方針の評価について

「五中学校を上中学校一校へ統合することが望ましい。」とする町長の方針について、その方針に至る経緯と基礎となるデータ等の提示を求めました。「学校規模適正化審議会の答申」と、これを踏まえた「教育委員会方針」がそのまま、町長の方針となっていることに関して、学校運営の見地にとった財政上の問題点、通学

に関する生徒の安全確保の問題点、ハード・ソフト両面を通じた教育環境の問題点等について、町長方針の他、上中・免田中への統合という二校論、免田中一校論も含めた活発な議論を展開いたしました。

二. 委員会の独自調査について

委員会を三班に分けて、通学路の安全点検・校舎改築事例とスクールバス運行の実態調査・上益城郡山都町の中学校統合事例とスクールバス運行状況を調査いたしました。

通学路につきましては、実際に自転車を使用して生徒の目線で安全性の点検を行いました。特に車の通行量が多い区間の歩道整備等、早急に対策が必要な箇所を見受けました。

校舎改築事例は、多目的に利用できる特別教室の効率的配置等について調査を行いました。これらについては、今後の改築事業計画や予算等の審議の過程で生かされるものと考えます。

スクールバス運行の調査につきましましては、実地の調査と



資料調査を行いました。利用基準は柔軟に対応しておられ、むしろ、近距離利用の弊害として生徒の体力低下が生じている、とのことでありました。

また、スクールバスの空き時間を利用したコミュニティバスの運行状況を調査いたしました。統合によりスクールバス導入となった場合、我町においても参考にすべき点を感じたところでありました。

三. 住民との協働について

町村合併の成否に影響があるとして、棚上げされるほど大きな課題であった中学校統合問題は、デリケートな要素を含んでおり、住民の多くが深い関心を持って注意深く見

守っています。執行部においては、住民の代表からなる「学校規模適正化審議会」への諮問、また、方針決定後の住民説明会の開催等を通じて、政策決定に住民参加を求めています。

上中プロムナード

私たち委員会としては、住民の中でも直接的に関わりの深い保護者代表のご意見をお聴きすることが出来ました。実生活の面から見た統合問題や将来のありべき教育環境、統合によって生じることが予測される地域環境の変化等について、大変貴重なご意見をいただきました。

四. 委員による討議について

委員会最終回において、調査事項を踏まえ、統合に関する争点や論点を整理し、問題点を多角的に討議する機会を設けました。このことにより、委員は相互の考え方を認識するに至りましたし、議案審査に臨む準備を整えました。以上が、新議員を含めた新たな議会体制により、前回の特別委員会において審議未了となった中学校統合に関する調査を行うという本特別委員会の調査経過であります。

条例・補正予算すべて原案可決

十二月定例議会

常任委員会報告

●総務文教委員会

十一月十八日(火)に委員五名、担当職員三名出席で開催された。

◎専決処分された補正予算を検討し、適正と判断した。

◎派遣職員、アウトソーシング雇用状況の調査をした。

◎特殊業務の調理、保育士等有資格者雇用もあり慎重な雇用対応を求めた。

◎給食センターを視察、給食々材について、更なる地元産食材使用を要望した。

◎給食費未納状況について、職員による時間外徴収等の成果がみえた。

収納率(平均)
公立九六%

私立九四%

◎八三%とか八九%という著しく低い保育園があり、収納率アップの必要がある。

●建設・経済常任委員会

十月三十一日(金)午後二時

一、免田駅前開発事業調査

①事業内容と期間

②地権者の意向と税対策

③計画地の町道整備

◎事業を推進する上で、地権者の意向を十分組み取るとともに、町道整備、物産館

計画については、地域への配慮をされたい。

二、指名競争入札実情調査

①本年度の契約状況

②予定価格の設定

③地場産業育成

④今後の入札制度改革

◎地域経済を刺激する上で地場産業育成に配慮するとともに入札監視委員会の設置等情報収集をされたい。

十二月十六日から十九日まで四日間の日程であさぎ町議会第四回定例会が開かれ、議案は一般会計補正予算第三号専決処分の承認、条例改正五件、一般会計補正予算第四号他特別会計補正予算八件、他に教育委員選任同意等二件が提案され、いずれも原案のとおり可決されました。

条例改正では中学校統合に関する条例改正が出されました。

助金四百万円などです。

ま

●人権擁護委員に田中昭夫さん



人権擁護委員に

田中昭夫さん(上南)を推薦することについて議会の意見を求められた諮問案で、満場一致で「適任」としました。

●教育委員に原田祐子さん



あさぎり町教育

委員会委員に原田祐子さん(深田南)の選任同意議案が提出され、無記名投票の結果、全員賛成で可決されました。

●厚生常任委員会

十一月四日(火)公立四保育所及び私立七保育所の現状把握のため、現地視察をした。

一、児童の充足率

公立：八七・五%

私立一〇六%

◎公立保育所の統合・民営化について調査検討の必要がある。

二、保育料の平成十九年度の

◎通学路の調査はされたか

調査をしマップを作成した



瀧田勇一議員

し、マップを作成し指導している。

瀧田 中学校統廃合で通学距離が遠くなり安全性が問題となっている。教委では通学路調査をされたか。

瀧田 中学校統廃合に関する道路整備計画として、下乙・百太郎線、上西・中線、今井・中学校線、多良木・大道線、上村・岡原線、齊堂五十八号線の六路線が上がっているが他に危ないところは無かったのか。

とところが危険と感じた。
瀧田 議会特別委員会調査結果報告で二箇班の代表から神原殿地区百太郎溝沿い別府線、同じく百太郎溝沿い学習塾前を通る柳別府岡原線が狭隘で危険性指摘の報告があった(写真)が調査されたか。



町道別府線(神殿原)

環境整備課長 百太郎溝沿いについて調査予定、地元区長からの要望を受け用地問題等検討する。

瀧田 危険箇所等の把握に努め改善策を早め実施計画にあげられることを要望する。

次の質問、二十一年度当初予算編成時期を迎えるが町長の農業政策について問う。

町長 今年の燃料高騰に伴い緊急に農家や農協等に出向き聞き取り実態調査をした。燃料価格の動向、飼料価格の状況、肥料資材の価格変動等、価格上昇による影響を調べ、特に打撃の大きい畜産農家を聞き取りした。それを基に緊急

実施できないか検討している状況である。

田原 県内では合志市、菊陽町、大津町などが施設を開設して取り組んでおられる。幸いあさぎり町には小児科の先生、又町職員の中に保健師、保育士もおられることから、子育てするならあさぎり町でというように、あさぎり町が先陣を切って子育てするのによりよい環境づくりが出来ないだろうかと思うが町長の考えは。

町長 子育て環境を整えて、

◎病児・病後児保育施設の開設について

公立病院の一部を使って二十一年九月を目途に、四ヶ町村合同で開設を検討している



田原健一議員

田原 過去の答弁で「多良木公立病院で一時預かるうという検討がなされている。その中で、多良木町がテスト的に

やってみるということであるので、その内容を踏まえてあさぎり町でも考えていきたい」ということであった。また、保健福祉総合計画の中にも、病後児保育の実施方法、場所などについて検討進めます」とあるが、これまでどの

ような検討がなされてきたか
町長 公立病院で多良木町がテスト的に実施するというところで進められていたが、かなりの施設と場所と人が必要になり、四市町村が合同で実施する方向で検討している。平成二十一年度には、病院の一部を使って事業を始めたという意向で進めていたが、病院の増改築に掛かり場所的に確保できないことから、十一月に構成町村の担当者が集まり、公立病院と協議を再開し、二十一年九月を目標において

より若者が定住しやすいようにしていくという思いは一緒である。まずは四町村で立ち上げて、その利用状況、課題を整理した上で、町として一定の予算の中で実施できるものであれば、次の段階として検討させていただきたい。

経済対策農業部門の事業として予算化し、来年度については財政事情考慮のうえ基本的には継続で検討をする。又、新たに加工による付加価値を進め、特産品の柚子、みしまさいこ等の支援を考えている。
後継者育成に努め平成二十四年度農家生産所得目標、二百三十四万円を目指す。
瀧田 目標に向け継続して欲しい。提言として高齢化していく農家の実情にどう対応するか。耕作放棄地が増えていくが、農家の組織化形成に向けた高齢農家対策を取り入れた農業政策を考えてほしい。

健康福祉課長 協議の中で、対象は六ヶ月児から小学三年生まで、当面は定員二人でという提案がなされている。

◎平成21年度当初予算編成について

元気が出る予算を編成する



山口和幸議員

山口 町長に就任一年目は暫定予算に肉付けをし、二年目は一年間の経験を踏まえての予算、今回は二年間の経験生かす三回目の予算であり、そこで、

町長は平成二十一年度当初予算を編成する上で、どのような思いを職員に伝えられたのか。
町長 基本的に一点目に地域産業の活性化、二点目が地域力の向上に向けて色々な活動の支援、三点目に財政健全化に取り組みたい。

総務課長 防災無線の老朽化（写真）に伴う情報基盤の整備、総合行政情報システムの整備



老朽化した防災無線

を考えている。

産業振興課長 新規作物（ミシマサイコ・ゆず）の振興、農業経営関係の担当職員の配置、中心市街地の活性化を図りたい。

環境整備課長 統合中学校に向けての通学路整備、吉井浄水場の整備、下水道の計画的な整備を行いたい。

健康福祉課長 総合福祉計画の策定に取り組みたい。

二九二件で三億一六〇〇万円である。

宮原 幾らまでが随契で入札は幾らからか。

総務課長 工事または製造の請負は一三〇万円、財産の買入れは八十万円、財産の売り払いは三十万円、物件の貸し付けは三十万円、前各号に掲げる以外のものは五十万円、これ以下の額については随契で締結できる。

宮原 指名委員会では指名する場合どのような選定基準で指名されているのか。

副町長 県は資格審査、経営

教育課長 統合中学校の開校に向けての取り組みをしたい。

町民課長 国民健康保険の財政の健全化、後期高齢者医療制度の周知徹底を行いたい。

山口 予算編成方針で、成熟していない将来負担比率を使っているが、元気な町づくりをする予算を編成する上で、職員の気持ち鼓舞することになら

町長 職員に対しては数値に惑わされず予算編成するよう課長会等で、周知していく必要がある。

山口 予算編成方針の中で議決機関（議会）並びに監査機関の意見を予算に反映させるとあるが、どのように取り組んだ

審査が行われ、この中でいろんな項目で評価点数がありそれぞれによりランクづけがあり、業者の能力のランクづけに基づいた工事に参加できる。町では要綱をつくっており、県の審査の数値をもとに業者選定を行っている。

宮原 予算の執行であるが適切な時期になされているのか。公営住宅の発注等は年度末に行われ短期間では良い仕事ができないという声がある。同じ予算で最高の仕事をするのであれば余裕を持った工期があった方が良くと思うが。

のか。

副町長 一般質問、予算審議等における提言、意見そして、監査意見書で指摘された事項については、課長会で検討をしており、平成二十一年度で解決できるとについては予算編成したい。

山口 財政の将来的な健全化をするために、財政調整基金の積み増しも必要であるが、地域経済の疲弊は相当なものであり、地域経済を刺激する上でも投資的経費の前年以上の予算編成を考えるべき。

町長 地域状況が厳しいことを念頭におき、可能な限り検討したい。

環境整備課長 住宅建設では県の設計審査等を踏えて実施しているが、今年度は三棟計画し十二月発注を考えている。工事には余裕を持った事業の推進という事で対応する必要があり今後はなるべく早い発注を県と協議してやっていきたい。

宮原 農業政策では町が出来る事は限られている。価格政策が最たるものであるが県や国に働きかけが大事と思うが。

町長 球磨郡の町村会で要望、陳情している。

◎随契と入札の割合は

随契は二九二件



宮原盛幸議員

雇用の重要な地位を占めている建設業も深刻な状況になっている。その意味からも各企業に平等に契約の機会を与えることは地方自治体の責務だと考えている。そこで随契と

入札の割合を質問する。

総務課長 指名競争入札で実施した案件は一四三件で十二億四五〇〇万円、随契は

宮原 現在の経済状況はアメリカに発した金融不安により日本はもとより球磨地方までも飲み込まれている。郡内の

◎中学校統合後の地域活性化は

強い決意を持って取りくむ



久保田久男議員

受けとめており、皆さんと一体となって活性化に取り組みたい。強い決意である。

久保田 整備計画は、

環境整備課長 町道の歩道整備については、次年度より計画

久保田 中学校統合によって、益々寂れるのではと町民の不安が募るばかりである。統合後の活性化について伺う。

町長 町民の不安は私も強く

◎合併の包括的な検証を

現状をよく認識し取り組む



愛甲利孝議員

なってきたかと思う。均等ある活性化策は、大きな取り組み課題と認識している。

愛甲 合併協議の中で、一番心配されていたのが周辺部の

衰退、それがもう既に現実のものになっていく。町長の見解を再度お尋ねする。

町長 合併をしていろんな環境が激変していると認識している。この現状をよく認識し

愛甲 あさぎり町の合併の包括的な検証が今こそ必要ではないか。

以上、周辺部の元気がなく

している。

久保田

廃校後の跡地利用はどのようになっているのか。お尋ねする。

町長 基

本的には、

地域の人がそこを拠点にいろんな活動をやっていける場所に取り組みを考えていきたい。

久保田 旧須恵村からの継続事業について伺う。

環境整備課長 須恵中央線平

て、これからどうするかという点に、真剣に取り組んでいかねばならないということ。これを常に頭に置いている。

愛甲 今、あさぎり町が一番直面しているのが中学校の統合問題だ。合併に伴う中学校

統合だと思いが、町内の四つの中学校を廃校にして、一つの中学校、現上中学校一校にするということが、果して、町民の納得と協力をいただけることか町長の見解を伺う。

町長 中学校の統合問題については、特別委員会の委員長報告を本日に真剣に受け止めていく。統合に向けての課題があることを認識している。そ



須恵中学校

山の未改良区間は、今後地域と協議を進めていく。

上阿蘇川未整備箇所は早急に対応はできかねるが、河川の状況を把握しながら整備を検討する。柳橋川の堆積土砂の撤去は今後も要望していく。中島の浸水対策は、水路の改修を産振課と協議している。川瀬の浸水対策は、国交省八代河川国土事務所の現地調査があつており、国交省の対応を見守っている。

久保田 合併時の地域ゾーンングに対する町長の考えは。

町長 基本的には今でも生き残るという考え方で、ゾーン構想を少し見直しなが

こをふまえてきちつと提案し、提案したからには、責任をもつていかなる取り組みをしていく決意である。

愛甲 須恵小学校の複式学級化対策について教育委員会にお尋ねする。

教育長 子ども達が不利益とならないよう、地域と教育委員会、学校が一緒になって、精一杯努力し

た。



須恵小学校1年生

ら中学校の跡地利用を含め、具体的取り組みを強めていく必要があると思っている。

久保田 自分達の地域をどのようにしていきたいのか、町民自ら考えて行動する仕組み作りが必要と考えるが。

町長 厳しいからこそ、まず役場が一步前に出て活動する取り組みをしていきたい。将来を担う若い人達が、いかに元気に組織・グループ活動を広げていくか大事であると思うし、そのような取り組みに新年度予算に考慮したい。

愛甲 複式学級にならないような対策ができないか。

町長 地域のみなさんと協力しながら何とか複式学級の回避、あるいは、その後の須恵小学校の維持ができるような取り組みを一緒にしていきたい。

愛甲 複式学級が避けられない場合、県費の職員の派遣要請、あるいは町費の先生を雇い入れることは出来ないか。

町長 いろんな角度から、教育環境が損なわれないような取り組みを検討していく。

◎税等の未収金対応は

滞納額の縮減に努める



榎山 保議員

六百九十一万円。不納欠損額千六百六十四万円となっていた。これらの収納体制強化についてお伺いしたい。

又、給食費の滞納金の合計、収納率はどれほどか。

榎山 景気が後退する中で一段と滞納額、及び不納欠損額が増額になる気がする。十九年度決算で滞納合計額が三億

らも収納率アップについて指導があつている。

税務課長 税の収納に当たっては現年度分を翌年度に繰り越さないことが基本であり最大の予防。

二十年度から四名体制で地区別、機能別に滞納整理を行っている。

二十一年度からは徴収職員を振興局に派遣して滞納整理のノウハウを習得するとともに県職員と共同徴収をし納税意識の向上、滞納額の縮減に努めたい。

教育課長 過年度分の給食費の未納額四月一日現在百五十七万円。

訪問徴収を行い十二月一日で九十九万五千円。今後も訪問による徴収強化、給食費の補助がある就学援助の説明強化に取り組む。

榎山 住宅使用料と同様保証人を立てて対応する考えはなにか。

教育課長 教育の場であるので差し押さえとかできない教育の分野である。人件費、施設費等は町で負担している。食材

のみの給食費であるので給食費に対する御理解をいただいているところである。

榎山 合併当時の人口から本年度四月一日現在の人口で約七百六十名減っている。反面滞納者は千八十八名から千五百八十六名と聞いている。この事についてどう思われるか。

町長 実情をよく見きわめながら話し合つて理解していただき努力していただく。長期戦であきらめず臨んでいく。

◎青少年健全育成・緊急経済対策について

夢祭りに併せ、大会実施も一つの案



緒方勇二議員

緒方 各種ジュニアクラブがあるが、景気悪化を理由に青少年健全育成に悪影響が出るようではいけない。生涯スポーツの振興と健康づくりの推進に

遅れがあつてはならない文化面も同様。情熱を注いでおられる指導者・運営に苦心されている役員の方々に安心して頂く様に、運営費の一部助成と、夢祭りに併せ、各種ジュニアスポーツ大会を実施出来ないか。

町長 施設使用料等を免除している、財政が厳しいことから、見直しの対象であつた。一部助成については、団体・組織増え



心道館30周年記念少年柔道大会

ているので相談し、検討する。夢祭りに併せ、スポーツ大会を実施するのも、ひとつの案と、思う、具體的に課題もある。教育委員、関係者と検討したい。

緒方 緊急経済対策事業案が示されたが、疲弊した地方経済に一番効果があるのは、公共

事業・公共投資では、景気を牽引してきた輸出関連も非正規雇用者を調整弁の如く人員整理し、正社員にも手が及ぶ情勢、地元高校生の内定取消しが心配、それほど実体経済が深刻、公共事業の前倒し発注の計画策定に入るべきでは。

町長 緊急の措置として仕事が無い方に軽度の作業を直接出せないか検討したが、制度的に出来ない、公共事業の効果は非常に有る、中学校統合がある程度筋道が出来たなら、通学路整備を徹底実施、町民全体の利益になる。

緒方 住宅建設があると、非常に波及効果大きい。住宅ローン

減税に併せ、住宅建設推進補助事業を復活すべきではないか。

町長 今回の対策で検討課題に上げたが、予算関係上、国の減税措置があるので見送った。

緒方 九月定例会で、須恵・深田地区に民間活力にて、子育て支援住宅建設をと、質問後、湯前町が、人口流出を防ぎ、若者定住促進・町財政負担軽減・効率的な管理運営。民間資本と手法、発想は不可欠と考え検討中と新聞報道されたが本町でも検討されたのか。

町長 それなりに課題もあると聞いている、他の町村の状況を調べた上で、あと一歩取組をしてみたい。

世界的経済不況下における
二十一年度の町政運営は

緊急避難的な取り組みも、決意を持って臨みたい



小見田和行議員

小見田 地方経済の疲弊しているところに、世界的経済不況が追い討ちをかけ、二十一年以降にも地方へ本格的なも

のとして現れてくる事を危惧している。行財政改革も大事であるが、町の産業の活性化に財源を投じる、相反した町政運営も必要と思う。町長のお考えを伺いたい。

町長 今回の緊急経済対策事業とか、住宅建設等も含めて緊急避難的な取り組みをやりたいと思ってる。

公共施設や町道の管理は適切に行われているか？

現状、困難な点もあるが、検討してゆく



永井英治議員

永井 現在、環境整備課の作業員さんが九人で、公園やグラウンドの様々な公共施設、または町道の管理をやっておられ、その作業は多岐にわたっているが、その作業

と作業員の人数の認識は？

環境整備課長 あさぎり町に合併した当初は、十五人、十六人の作業員の体制だったが、現在は十人体制の常時八、九人での作業となっている。現状では、集中管理業務で町道の草払い、白線出し、道路補修等、また、各課の要望等に応じて作業をやっていくが、町道の草払いについては町民の要望が多く、現状では追いついていない。一部パートナープログラ

小見田 未整備の用排水路、農道の現状把握を実施されたが、相談件数と印象はどうだったか伺いたい。

産業振興課長 相談件数は一九二件要望があり、内容は



未整備用排水路(岡原)

ム制度導入により道路の植樹帯の管理を老人会等で行って頂いている地区があり、そのような事が広がるように期待したい。作業員の人数については、財政の問題があるが、公園については、専属的な対応ができるよう特段の配慮が必要と考える。

永井 公共施設の中で、特に「高山総合運動公園」ゲートボール場四面と、免田の「畜産センター」の荒廃が目につくが、その対策は？

教育課長 「高山運動公園」は、昭和六十年の完成当時は、ゲートボール人口も多く、頻繁に利用されていたが、現在は利用がない。別の活用方法も含めて検討したい。

産業振興課長 現状では、子牛セ

水路の老朽化、漏水対策、素掘りの排水等で概算事業費も推計中であるが、大まかで三億円ぐらいとみている。これほど未整備箇所が残っているのかと農業振興班もびっくりしている。

小見田 今後の対応を伺いたい。
産業振興課長 ささまざまな補助事業、制度等を検討し今後の方向づけを行いたい。

小見田 町営住宅の約二割が昭和四十年以前に建設された老朽化住宅である。立て替えの計画を伺いたい。

環境整備課長 平成二十一年度に住宅建設計画を見直し、新たな計画を策定していく。

り前の年六回、免田、須恵、深田の各畜産振興協会で、また、免田地区の畜魂祭の前にも清掃を実施している。今後予算も含めて、検討したい。



荒廃している免田畜産センターの一部(久鹿)

小見田 現地での立替ができない場合、永く住み慣れた団地からの移転も御願いする事になるが、入居者の方には抵抗感のある人も多い。それにはどう対応していくつもりか。

環境整備課長 入居者の方へ説明会を十分実施し、協力を求めていきたい。

小見田 あさぎり町は県下に先がけて、バイオマスタウン構想を提出、公表されている。町民への普及啓発も推進すべきと思うが、今後の取り組みは。

町長 バイオマスタウンの認定をされた町ということで広報紙等で特集し、周知をはかりたい。

まちづくり意見交換会について

永井 まちづくり意見交換会の成果と、今後のあり方について伺う。

総務課長 昨年までは、十一会場を実施してきたが、出席人数は、年々減少してきた。区長会でも検討をし今回は五会場地区の代表者を募っていただき、各地区十、十五人の出席者で、昨年までとは趣向を変えて実施した。意見の数は出席者の減少にもかかわらず、昨年は、五十五件に対して今回は七十八件に増加した。内容も中学校統合問題や、財政状況等、多岐にわたる。今後反省点も踏まえ、区長会等の意見も聞きながら検討していく。

◎有害鳥獣駆除対策について(猿害)

鳥獣被害防止計画を作成した



桑原 武夫議員

桑原 近年、球磨人吉全地域において、鹿、猪、猿、カラス等の農林業への被害は年々深刻な状況である。特に猿害であり猿の群れを見ることがな

かった地域、平野部、山里にまで季節関係なく年間通して被害が拡大している状況である。一度に目撃される野猿の個体数が目に見えて増え続けている。又、頻繁に出没する場所には民家そして通学路もあり大変危険であるが町の野猿問題対応策は？

産業振興課長 行政、関係団体、地域住民の方、猟友会の対策を推進し、球磨人吉連携し、一斉捕獲体制の確立を目指し、今後猿の被害を少なくするよう努力していく。



農地に出没する猿の群れ(内山)

に、群れの調整、捕獲、移住を行い猿だけでなく、鹿、猪、カラス等、一年を通し捕獲許可を出せる体制の確立そして、

本地域の基幹産業である、農林業において、一件の被害も出ることなく又、人的被害はもろろんのこと、この問題に対し、今後執行部の前向きに取り組まれることを確信する。

◎須恵・深田地区への公営住宅建設について

早くつくる検討をしたい



岩水 国昭議員

岩水 若い町、豊かな町、夢ふくらむあさぎり町、又均衡ある町作りをめざし出発し、あさぎり町も五年を迎えてい

る。しかし、現在球磨川を挟んで、川北と川南の地域格差が見られるようになったという声も多く聞かれるようになってきた。特に須恵地区においては、旧役場、農協支所の廃止、商店の減少、来年から小学校の複式学級への移行、統廃合による中学校の廃止、又住民の特

に高齢者のいこいの場であった入浴施設の廃止ということ、住民は地区衰退を非常に心配している。全く同じような声を深田地区からも聞いている。そこで公営住宅を建設して、若者の定住を図るのも、活性化策と思うが。

町長 合併後、いろんな機関あるいはその他の施設が少なくなつて、寂しい状況になつてきて全く同じ思いである。振興策として住宅建設は活性化の大きな取り組みと認識し

ている。

岩水 入居申し込み状況は。

環境整備課長 十九年度は四十一件あり、三十八名が適

格者、六名が抽選辞退、三十二名が順番待ち、二十七名に紹介し十五名が辞退、結果十二名が入居。

岩水 免田地区公営、民営住宅計五〇八戸。岡原地区計

一一一戸。上地区計一一〇戸。深田地区計四七戸。須恵地区計二二戸となっているが。

町長 特に須恵地区について

は、住宅が少なく感じる。

岩水 統廃合で中学校がなくなる川北について、さびれを

心配するが。

町長 二十四年度閉校して、この土地に住宅を建てるのは遅いので、その前に早くつくるべきかと思う。

岩水 町営住宅候補地は。

環境整備課長 住宅整備計画の中でその住宅用地を含め、検討していく。

上地区	皆越	100頭前後	1群
岡原地区	宮麓	50頭前後	1群
須恵地区		30頭前後	1群
深田地区	古草城	100頭前後	2群
	新		
	内山		

町民の方々と一緒に

あさぎり町議会議長

橋爪 和彦



新春を寿ぎ、皆様のご多幸を心より祈念申し上げます。

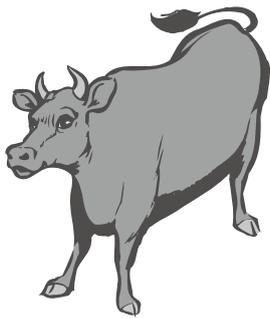
さて、平成二十一年は、百年に一度とも云われる不況の中の船出となりました。好況の恩恵はなかなか届きませんが、不況は地方を直撃し、本町でも深刻な影響が出ています。そのため、十二月の定例会に町内の各分野に対する支援事業の補正予算が提案され可決いたしました。議会としては、今後も執行部とともに元氣の出るあさぎり町を目指して知恵を出していきたいと考えています。

中学校統合問題は、町民世論を二分し合併後最大の政治問題になった感があ

ります。議会は、独自に特別委員会を立ち上げ、延べ三十時間を超す調査・審議のうえ条例改正案に臨みました。結果は、激論の末の僅差で可決となりましたが、そのダイジェストを本号に掲載しています。

本年は、議会力と議員各自の資質の向上を目指し、本格的に議会改革に取り組む予定で、昨年から議会運営委員会を中心に準備をすすめています。その上で情報公開を一段と進めて町民各位の理解を得ながら、協働での町づくりを進めていきたいとの思いを持っています。

皆様の、遠慮のないご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。



議会ひとくちメモ(2)

(町議会のことをお知らせするコーナー)

問 あさぎり町議会の定数は何人ですか？

答 平成二十年四月に行われた町議会議員選挙から定数が変わり、従来までの二十二二人から四人減って十八人となりました。定数は条例で定められています。

問 町議会議員選挙は？

答 議員は住民の直接投票で選ばれます。満二十才以上の日本国民で引き続き三ヶ月以上町内に住所のある人は議員を選ぶ資格選挙権があります。

選挙権を有する満二十五歳以上の人には議員に立候補し選ばれる資格、被選挙権があります。町議会議員の任期は四年と定められています。また、選挙権、被選挙権とも無い人については別に法律で定められています。

議会陳情、研修

平成20年11月25日(火)～平成20年11月27日(木)

◆**中心市街地活性化について**
松村経済産業大臣政務官



◆**伊賀川水害対策について**
金子国土交通副大臣



ふるさと情報発信施設
地域活性化センター
(ふるさと情報プラザ)

東京都有楽町



廃校を利用した宿泊型の
体験学習施設

星ふる学校(くまの木)

栃木県塩谷町



町

民

の

声



元気な地域活動

岡原 田上 信子

何でもいいからと原稿用紙を頂いたのが折しも阪神大震災十四年目の日であり、締切りが米オバマ政権発足の日。その間、首を横に縦にと考えあぐね、結局何の見解無しに期限を迎え、天為とばかり胸中に沸き上がった「支援」という題材にて記憶薄れぬ内、書きなぐる次第である。さて、私事ではあるが、健康おたくが高じ、年に数回、そここのマラソン大会に参加している。記録や完走する事も大切であるが、スローランナーである我にとってその土地で味わうおもてなしの心がなにより心地よく、珍しく続いているのが現状である。ここでの「おもてなしの心」とはなにも賞品が良いとか、給水や交通指導の徹底のみ

にあらず、沿道で思い思いの応援をひたすら繰り広げる心意気とも言い換えられる。実際、そこにはたくさん笑顔があり、運営に積極的に参画する姿は自信に満ちあふれ、地域の発展に寄与する大義をも伝わり自ずと元気を貰える。勿論本



くま川マラソンボランティア活動

町に於いても町の活性化を望み様々な出会いの場が提供されているのだから取組みの規模やその温度差を評価するつもりはないが、ただここ数年、生活や嗜好の相違、また人間関係の希薄さから空虚な事象ばかりが目立ち、住民のしかも若い

世代の主體的参加が減少傾向にあるのが残念に思える。応援スタッフとして行政の斡旋する支援グループが重用されるが、メンバーの高齢化も加え、その活動はかなりの負担を伴っている様にも伺える。と同時にこの集結する力の賜に感謝の念を持つも活動の継続を思うと不安もあり、当事者も含め、もつと多くの方に一人一役で無理のない自分の支援活動を続けて頂き、またその輪が広がる様にと思い描いてしまう。主

役は地元の人々であるのだからより一層知恵を出し合い、その地に根ざした活動を支え、それぞれの運営にも共同参画していくことが活気ある地域の礎を築くに価すると実感する。その意に於いて議会には、持ち前のリーダーシップを発揮され地元を元気にする活動を実践して頂くことをご期待申し上げたい。

編集後記

町民の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えるの事とお慶び申し上げます。

一年末から年始にかけてまして、一〇〇年に一度の不況と言葉を、耳にするとともに、メディアにて派遣村の状況が放映され、世界的な金融危機により景気後退で、求人減少、派遣職員の大量解雇・雇用の急激な悪化等々、これから先どうなるのだろうか？不安一杯と言う状況下ではありますが、こういうときこそお互いに声を出し、知恵を出し、明日・明後日と精一杯生きるために頑張ろうではありませんか。

又、広報委員一同研鑽を重ねながら、町民の見やすい議会だよりの発行に努めて参りますので、ご要望等をお聞かせいただきたいと思います。(皆越)

編集・発行責任者

議長 橋爪 和彦

広報調査特別委員会

- 委員長 淵田 勇一
- 副委員長 愛甲 利孝
- 委員 皆越てる子
- 委員 山口 和幸
- 委員 緒方 勇二
- 委員 永井 英治